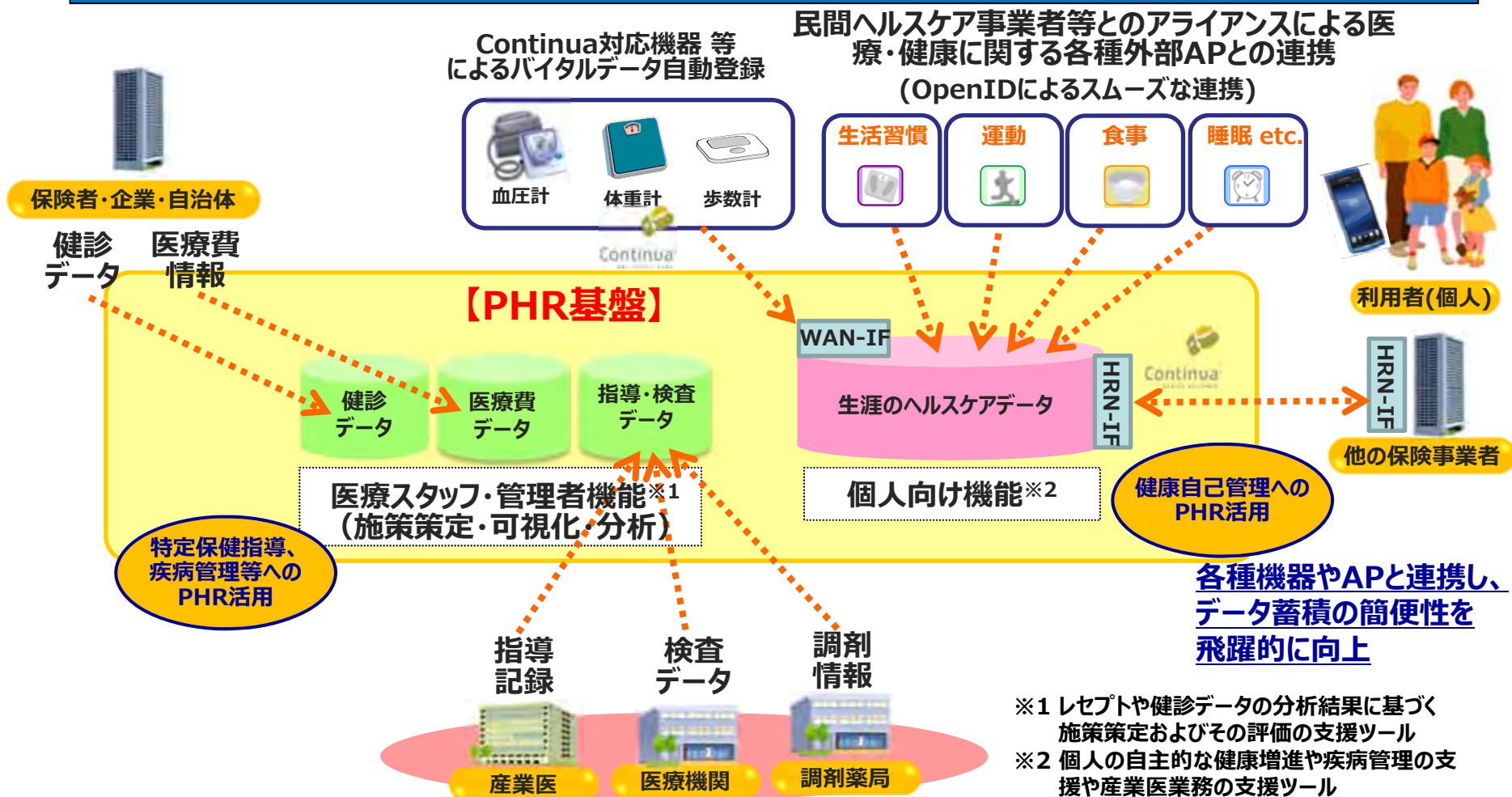


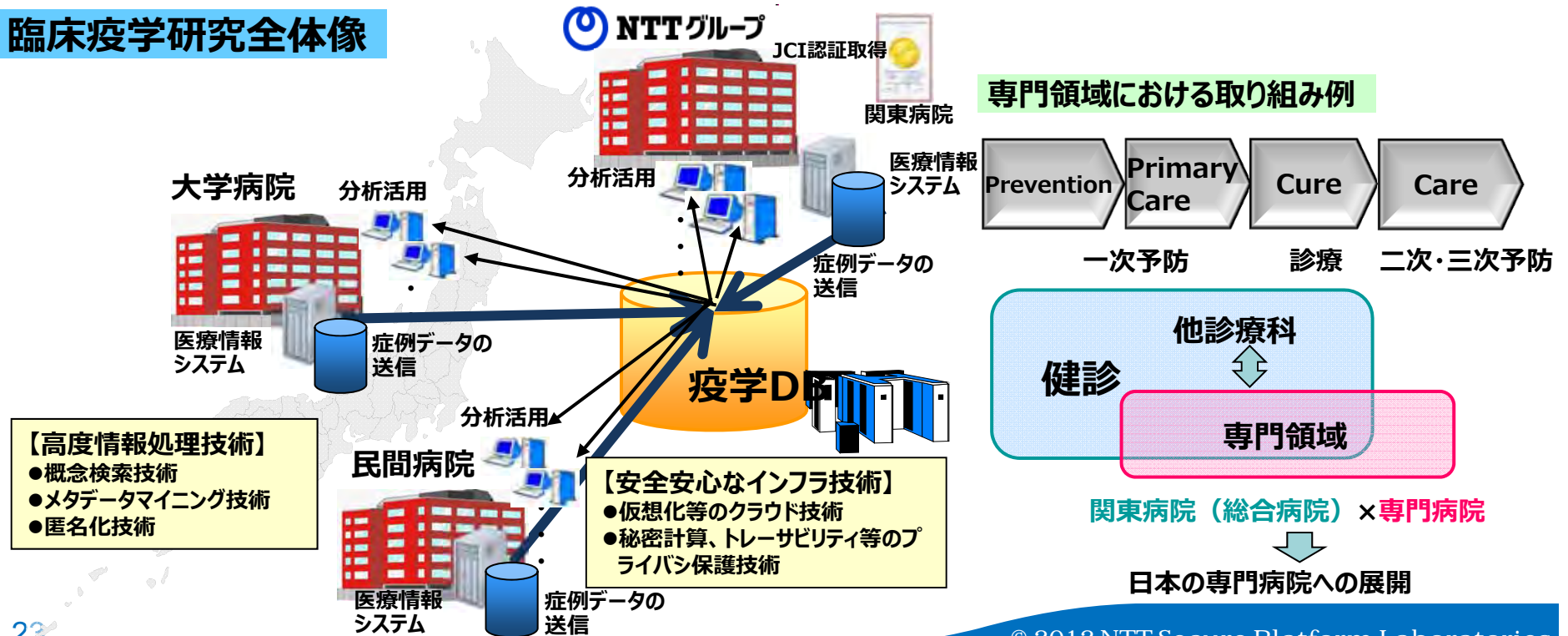
- ・まだトライアルを始めたばかりであり、効果のある疾病予防・管理プログラム開発と医療費削減効果のエビデンス獲得には中長期的な検証が必要
- ・社員だけでなく扶養家族も含め、病気でない人の一次予防、二次予防に対するモチベーション維持・向上を支援する方策検討も必要



※1 レセプトや健診データの分析結果に基づく施策策定およびその評価の支援ツール
 ※2 個人の自主的な健康増進や疾病管理の支援や産業医業務の支援ツール

- 全国の医療機関から症例データ等を集約、情報を分析・活用するためのインフラを構築し、All Japanで医療情報を共有化することで医師主導の臨床研究を推進し、日本の医療の質の向上に貢献
- NTT関東病院と連携し、外科領域でSSI（手術部位感染症）サーベイランスへの適用（関東病院より学会発表）
- JALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）と秘密計算技術の共同研究を開始し、**世界最速の秘密計算アルゴリズム**を活用することで、**医療秘密統計解析で実用的な速度性能を実証**
- 臨床研究データの構造化・統合化の検討を進め、プロトタイプを経て臨床疫学研究DBを構築予定

臨床疫学研究全体像



■大規模コホートの母体となる地域医療連携でのDBが二次利用にほとんどつかわれていない

- ◆EHR、PHR基盤を活用し、匿名化DBの構築が必要
 - 秘密分散・計算技術等の活用

■ほとんどの臨床疫学DBはプロトコル毎の小規模DB

- ◆手作業によるデータ入力がほとんど（医師のボランティア）
- ◆小規模DBを集めメタデータマイニング可能な大規模DB化へ
- ◆データ名寄せのためのデータ・クレンジング技術やビッグデータのマイニング技術の確立が必要

■法的／ガイドライン対応

- ◆秘密分散保存と個人情報保護法との関係など、解釈があまり明確になっていない
- ◆米国のHIPAA法のような医療情報の取り扱いに必要な法制度の整備が必要

- eHealth標準化の国際情勢下においてITU（国連の専門機関、国際電気通信連合）を中心に**中国等アジア諸国の攻勢が激しくなってきた**
- NTTでは、総務省と連携し、TTC（一般社団法人情報通信技術委員会）の健康・高齢化WPでの活動を通して日本の意見をFG M2Mに寄書として提出し、巻き返しを図っている状況
- Continuaを活用した一連のeHealth、mHealthサービス方式を**ITU-T（通信分野）で標準化するとともに、ITU-D（開発途上国における電気通信技術標準）でのガイドライン化とビジネス展開**を目指している
- 2013年2月4、5日 京王プラザホテル
Joint ITU-D, ITU-T eHealth Workshopを開催予定